

令和3年度

徳島市津田中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○つながりを大切にし、認め合い、学び合い、高め合う授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
和田 研作	校長: 田村 浩康 教頭: 矢部 淳 教頭: 原 裕則 1年主任: 上野 絵理 2年主任: 清水 勝 3年主任: 川渕 美紀

校長

田村 浩康

【各校の取組状況の把握について】

教員間の相互授業参観や、学校評価アンケートの結果から、取組状況の把握を行う。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業において、意欲的に学習に取り組むことができる生徒が多く、挙手や発表にも積極的である。方法や手順がわかる内容には一生懸命取り組める。 ●粘り強く繰り返し学習することが苦手な生徒が多い。そのため理解を深めることができず、基礎的・基本的な内容が定着していない生徒もみられる。	・授業及び家庭学習、毎日の朝学習を大切にし、各教科の基礎的・基本的な内容の習得に意欲的に取り組むことができる。	・学習のめあての明示やICTの活用、発問の工夫をし、わかる授業を実践する。 ・授業中に小テストなどを実施し、生徒の理解の程度を確認する。 ・学年や教科に関係なく、教員間で相互授業参観を行う。 ・毎朝のセミナー学習で基礎学力の定着を図る。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○教師やクラスメイトなど、他の人の話や意見をきちんと聞くことができる生徒が多い。 ●自分の考えをまとめる力に課題があり、筋道を立てて説明・表現することが苦手な生徒が多くみられる。	・読む・書く・発表する活動や、話し合い活動に意欲的に取り組み、自分の考えをまとめたり、人に伝えたりできる。また人の意見を取り入れ自分の考えを深めることができる。	・1人1台のタブレット等のICT機器を効果的に使い、発表や意見交換をさせる。 ・授業の中に話し合いや教え合いの場面を設け、自分の考えを他者に伝えたり、他者の意見を聞いたりする機会を積極的につくる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自主勉強ノートの使用が定着しており、家庭学習率は高い。また、チャイム前着席の習慣が身につけており、落ち着いた態度で授業に取り組むことができる。 ●自分で課題を設定するのが苦手、自主勉強ノートの使い方が形式化・非効率化し、学力向上に繋がっていない生徒がいる。また、チャイム前着席後、その時間を有効に使えていない生徒もいる。	・自主勉強ノートなどを活用し、学習習慣を身につけ、自分の学習方法を確立することができる。 ・チャイム前に自主的に着席し、前時の復習や本時の予習など自ら課題を見つけて取り組むことができる。	・課題の出し方を工夫し、確実に取り組めるような内容にする。また適宜、自主勉強ノートの使用方を指導する。 ・テスト期間や長期休業中に学習計画表や学習記録をつけさせることで、学習方法の習得と学習習慣の定着を図る。			

令和3年度 学力向上ロードマップ

